

外国語科学習指導案

○○○○
指導者 ○○ ○○

- 1 履修単位数 ○単位
- 2 実施日時 令和7年○月○日（○）第○時限
- 3 学 級 ○○HR（○名）
- 4 使用教科書 MY WAY I（三省堂）
- 5 単 元 名 Lesson 5 Endangered Languages
- 6 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標（第1学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
<ul style="list-style-type: none"> ・事物に関する紹介や対話などを聞いて、必要な情報や概要をとることができる。 ・英語の音声的な特徴に注意しながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明や物語を読んで、必要な情報や考えなどの概要をとることができる。 ・英語の音声的な特徴に注意して音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや意見を平易な英語で話すことができる。 ・身近なことについて相手とやり取りしたり、自分の日常のことについて述べたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや意見を平易な英語で話すことができる。 ・身近なことについて相手とやり取りしたり、自分の日常のことについて述べたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、情報をまとめたり、自分の考えを簡潔に書くことができる。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句に注意しながら書くことができる。

7 単元設定の理由

○教材観

本単元は、消滅の危機にある世界の言語と、その言語特有の表現などについて学び、言語消滅の危機を引き起こす現代社会の要因やその解決策について考える単元である。

この単元を学習することで、言語は単なる「コミュニケーションの手段」ではなく、その地域や民族の歴史・価値観・暮らし方を映す文化の一部であることが理解できる。また、世界には数千の言語が存在し、その多くが消滅の危機にあるという現状を知ること、文化の尊重や保護の必要性に気づくこともできる。文法事項に関しては、「関係代名詞」の習得が中心となっている。

○生徒観

本学級の生徒は、周りの仲間との言語活動には大変意欲的であり、授業中に活動の時間を与えると必ず良いリアクションが返ってくる。しかし、情報や考え、気持ちなどについて英語で書く経験が少ないため、苦手意識を持っているのが現状である。そのため、言語材料の習得や内容に関する背景知識、使用する語句や文、文章例を十分に示したり、準備のための時間を確保したりする必要があると考える。

○指導観

文法事項としては、関係代名詞（who, which, that など）が中心となっている。関係代名詞は名詞や代名詞に説明を加え、情報をより詳細に表現する手段である。この文法項目を学ぶことで、単に情報を伝えるのではなく、その情報の関係性や背景を明確に示す能力を涵養することができる。

言語活動としては、「徳島県の方言である阿波弁について、来県予定の留学生にメールで伝える」という活動を行う。「書くこと」の言語活動として紙面に記入することにとどまらず、Geminiを活用し、入力したメールの内容への返信及びメール文の添削を行う。この活動から、英語を用いて、書いて伝え合う経験を積むだけでなく、生成AIを使うことでメッセージのやり取りや会話の練習を手軽に行うことができるということを伝えたい。この授業を通して、理由や根拠とともに書いて伝える力を身につけさせたい。

8 単元の目標

言語とは、単なるコミュニケーションツールではなく、その地域や民族の歴史・価値観・暮らし方を映す文化の一部であるということを理解し、その上で消滅の危機にある言語を守ることの重要性を感じる事が出来る感性を育む。

また、「書くこと」における活動では、自分が設定した内容について、理由や根拠とともに、書いて伝えることができるようになることを目標とする。

9 単元の評価規準（「書くこと」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 ・情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現等を理解している。 〈技能〉 ・社会的な話題について、情報や考えを理由とともに書いて伝える技能を身につけている。	読み手に自分の考えをよく理解してもらえるように、社会的な話題について、情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに書いて伝えている。	読み手に自分の考えをよく理解してもらえるように、社会的な話題について、情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに書いて伝えようとしている。

10 指導と評価の計画（5時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	評価			備考
		知	思	態	
1 〜 4	■単元の目標を理解する。 ■言語学者へのインタビューを確認し、各Sectionに登場する消滅の危機にある言語について理解する。 ■読み取った内容をもとに、いくつかの質問に答えたり、内容に関する感想や自分の考えを、書いて伝え合ったりする。 ①インタビューの内容を読み取り、教科書に載っているいくつかの質問に答える。 ②①の内容を踏まえ、各国にある消滅の危機にある言語やその言語特有の単語について考えや気持ちを書きだし、周囲の生徒と共有する。 ■インタビューを読み取る上で必要な文法事項である関係代名詞について理解する。	活動 を 確 実 に 見 届 け て 指 導 に 生 か す こ と は 毎 時 間 行 う。	一 斉 に 記 録 に 残 す 評 価 は 行 わ な い。 た だ し、 ね ら い に 即 し て 生 徒 の		
5	■来県予定の交換留学生に、徳島県の方言である阿波弁について説明するためのメール文を書く。 ①例文とともに、伝え方やそのためのフォーマットを確認する。 ②フォーマットに従い、下書きを行う。Geminiに完成した英文を送信し、その内容への返信と添削を行わせる。				

	※プロンプトは予め教員が用意しておく。 ③グループやクラスで互いのメール文を読み合い、内容の良い点について伝え合う。				
後日	パフォーマンステスト 同様の目的・場面・状況を設定して行う。	○	○	○	

1.1 本時の活動（第5時）

(1) 目標

「これから徳島へ交換留学で訪れるアメリカ人の高校生に、徳島の方言である阿波弁を知ってもらい、使ってもらえるように電子メールで阿波弁について説明を行う」という活動の中で、自分が選んだ阿波弁を、理由とともに書いて伝える。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
3分	1 本時の目標を確認するとともに、本時の流れを伝える。	メインの活動は「阿波弁についてメール形式で書いて伝えること」であるということ共有しておく。		
3分	2 予め分けておいたグループの中で“Write as many Awa-ben as you can”に答える。グループメンバーと話し合いながら書き出していく。	日常で使っている言葉が阿波弁だと認識していないことも想定されるので、机間指導で適宜助言する。		
3分	3 各グループで出てきた答えを共有し、Awa-ben List の内容を全体で確認する。	話し合いの中で出てきた阿波弁やリストの中からメール文に使う阿波弁を選ぶよう伝える。		
19分	4 「これから徳島へ交換留学で訪れるアメリカ人の高校生に、徳島の方言である阿波弁を知ってもらい、使ってもらえるように電子メールで阿波弁について説明する」というテーマのもと、情報を書いて伝える活動を行う。ワークシートにあるフォーマットを活用し、準備する。	先に例文の紹介・解説、活用するフォーマットの説明を行っておく。生成AIの利用については、全文の英訳ではなく単語やフレーズの検索のみに使うよう指示する。		
7分	5 Gemini にアクセスし、予めこちらが用意したプロンプトを入力さ	初めて Gemini を利用する生徒もいるので、スクリーンに Gemini を示しながら	知 思 態	活動観察

	せる。その後、ワークシートに書き込んだ内容を Gemini に送信する。	入力させる。		
8分	6 Gemini による添削結果を踏まえ、ワークシートにリライトする。	全訳や書き写しにならないように、内容を日本語で簡潔にまとめるよう明確に指示する。リライトに関しては、指摘された箇所を確認した上で書き写すよう指示する。		
4分	7 リライトした内容をグループで読み合う。	アイコンタクトや話すスピードに留意させる。		
3分	8 ワークシートの自己分析欄を使って本時の振り返りを行う。次回の目標を立てる。	ワークシートの自己分析欄に振り返りを記入する。次回の目標を具体的に記入させる。		

(3) 評価及び指導の例（「書くこと」）

「十分満足できる」と判断される状況(a)	留学生に知ってもらいたい阿波弁について理由とともに書いて伝えている。また、生成 AI による助言をもとに、リライトしようとしている。
「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導	さまざまな阿波弁が存在することに気づかせ、それらを使う場面について生徒に考えさせ、阿波弁を説明するために必要な語彙・文法について指導・助言する。
「努力を要する」状況(c)と判断した生徒への事後指導	比較的短い英文で、阿波弁の説明を書いて伝えることができるよう個別に支援し、「おおむね満足できる」状況（b）を達成できるようにする。

※いずれの場合も添削結果を踏まえたリライトをしたのち、原文との比較をもとに、添削箇所の確認と復習を行うことで今後に繋げさせる。